あおもり民医連

2019年3月29日発行
【8面オールカラー】発行部数2,806部
第280号

発行元／青森県民主医療機関連合会
所在地／〒030-0822 青森市中央三丁目10番2号
TEL. 017（723）4076　FAX. 017（773）5326
URL http://aomin.jp/　e-mail info@aomin.jp

さようなら原発・核燃3・11

原子力の恐怖からまぬがれて生きる権利『ノー・ニュークス権』の実現を！

青森集会2019

3月10日（日）、「リンクステーションホール青森」にて、『2019年さようなら原発・核燃3.11青森集会』を開催し、全体で約700名（内職員312人）が参加しました。講師にはロック歌手で弁護士の島昭宏氏を招き「原発裁判と原子力の恐怖からまぬがれて生きる権利『ノー・ニュークス権』」についてお話しされました。

ロック弁護士 島 昭宏 氏

集会では島昭宏氏が、国や電力会社だけの責任追及だけでなく、製造物の責任者であるＧＥや日立・東芝を相手に、2014年には約4000名の原告による原発メーカーに対する訴訟について講演されました。その中で日本国憲法13条や25条で環境権として発展した人権と同じように、新たな人権として島弁護士自身が提唱している「原発からの恐怖からまぬがれ、生きる権利」（ノー・ニュークス権）の内容についても触れ、人権としての「原発は嫌だと言う権利」を確立する必要があることを力説しました。

各地からの報告として『原発核燃をなくす下北の会』が訪問アンケートを取り組んだ結果報告や函館の『大間原発訴訟の会』の活動報告がありました。最後に集会決議文が朗読され、劇団弘演の作間しのぶさんより提起されました。集会後は参加者全員でパレード行進をおこない、軽快なリズムに乗って元気なシュプレヒコールが街中にとどろきわたり、脱原発・核燃から子どもを守ろうと市民にアピールしました。また、ゴールの青森県庁前では・知事は県民の安全を守れ！青森県を核のゴミ捨て場にするな！など県に対して力強く訴えが続きました。

（青森民医連／津川文彦）

なくせ、原発・核燃 三八地区集会

諏訪益一県議員による講演
「核燃サイクルと青森県」

各地で原発・核燃地区集会が行われる中、三八地区集会は3月9日（土）に「八戸ポータルミュージアムはっち」で行われ、約100名の方が参加されました。

最初は諏訪益一県議による「核燃サイクルと青森県」の講演でした。青森県に持ち込まれた核の歴史、原発事故によって避難した福島県民は10万人以上が故郷に戻られていない実態、増え続ける汚染水、放射能廃棄物処理問題、甲状腺がんの被害、ガラス固化体の最終処分地については、他に見つからない場合はそのまま青森県が引き続き受けることになるという危機説など様々な話を聞くことが出来ました。そのあと、気温12度の青空の下、パレードのうたに合わせて街頭行進しました。世界の流れは脱原発へと進んでいます。放射能と人間は共存できない事、3.11の原発事故を風化させてはいけないこと、福島の原発事故の二の舞を起こしてはいけないことを改めて感じることができ、今後も原発・核燃反対運動を応援したいと感じることが出来ました。

（デイサービスセンター生協たむかいの家／坂本浩一）

気温12度の暖かい中、街宣
パレードを行いました。

ようこそ未来のナース達！

冬の 高校生1日看護体験会

in 青森

十二月二十七日（木）青森市内の十二校を対象に「冬の高校生一日看護体験」を開催しました。

「高校生一日看護体験」は将来、看護師になりたいと思う進路の選択に役立ててもらおうと、毎年開催しています。今回、あおもり協立病院へ二十名、生協さくら病院へ十名来てくれました。生協さくら病院では認知症認定看護師の高谷主任による「高齢者とのコミュニケーション方法」講話の他、病棟で手浴・足浴・食事介助・車椅子移送などを体験してもらいました。始めは緊張で表情がこわばっていましたが、患者さんとの会話で徐々に緊張もほぐれてゆき、最後はすっかり笑顔になっていました。参加者からは「認知症の人との会話で、共感して相手を不安にさせないようにする事が大事だと分かった。今後活用したい」、「ますます看護師になりたいという気持ちが強まりました」など様々な感想が寄せられました。

（青森保健生協本部看護学生担当／須藤千夏）

血圧測定をしました。

in 弘前

十二月二十六日（水）健生病院、十二月二十七日（木）藤代健生病院で高校一年生を対象に冬企画高校生一日看護体験がありました。

毎年高校の冬休みに「高校生一日看護体験」を開催し、毎回猛吹雪などの悪天候を心配しながら高校生を迎えています。今年は、粉雪がちらつく程度のお天気で委員たちも少し安心しながら高校生の到着を待ちました。健生病院は二十五名、藤代健生病院は十二名の高校生が参加しました。

今回は、県連看護学生委員会で「健生病院の手術場を使って手洗い体験をさせたい。」「外からでも高校生に手術場を見せたい。」という積極的な企画提案があり、当日手術室の職員の協力のもと、とても楽しく良い体験を行うことができました。健生病院も藤代健生病院も午前中は看護技術体験、午後は患者と触れ合う機会を作り、高校生の皆さんに病院のアピールや看護への道につなげる努力をしていました。受け入れてくださった各病院の皆様、ご協力ありがとうございました。

（津軽保健生協看護介護部看護学生担当／津川智子）

手術室に入る前に少し緊張している高校生のみなさん

冬の 高校生1日医師体験

青森民医連医師医学生課では各病院・診療所の協力のもと高校生1日医師体験会を開催し、48名（弘前16・青森24・八戸8）参加しました。

体験プログラムは病院見学、訪問診療同行、心臓カテーテル見学、気管支挿管模擬体験など各病院・診療所の医療活動です。

「医師、看護師だけでなくスタッフ全員の連携が地域の健康を支えていることがわかった」「今回の体験をモチベーションにして、これからしっかり勉強し、医師になりたい」「訪問診療で医師と同行して、患者さんとのコミュニケーションの大切さを知ることができた」など感想が寄せられ、各高校からも好評をいただいております。2月末現在、医師体験に参加した高校生は30名を超える医学部合格者が誕生しています。奨学金の申込みなど多数問い合わせもきており、医学部入学前から継続的なつながり構築を目指して取り組んでいます。（青森民医連／立花典明）

薬学部・薬科大合格おめでとう会

in 八戸

二月二十六日（火）午後にあけぼの薬局八戸店にて、薬科大合格おめでとう会を開催しました。

合格おめでとう会とは、薬学部・薬科大学を合格した市内の高校生を対象に、薬科大での勉強や生活、薬剤師の業務について等、薬剤師や薬学生から直接話を聞き、交流を持つ会です。

今回は東北医科薬科大学に合格した二名の学生が参加し、薬剤師から在宅訪問や他職種と連携した現在の薬剤師業務について話を聞き、実際の服薬指導の見学や調剤業務の体験を行いました。現役の薬学生は授業のため参加できませんでしたが、県連の奨学生担当者より薬科大での状況を話していただき、学生さんも大学での新生活に思いを馳せている様子でした。

今回参加された学生さんが、このまま無事に薬剤師になってくれることを願いながら、楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

（あけぼの薬局八戸店／岩本るり子）

講師／協立クリニック
磯島寿人医師

2018年度 薬剤師管理者研修
～A,B,Cなどのバイタルサインを見極めるために～

3月2日、協立クリニック4階会議室にて開催され、
4法人から21名の薬剤師が参加しました。

私たち薬剤師には、医療行為は認められていません。患者さんに触る事もダメと言われていた時代もありました。しかしここ数年で、副作用の確認・薬の効果判定の為の聴診やバイタル測定による薬剤師によるフィジカルアセスメント、外用の実技指導の為の軟膏塗布、対物（薬）業務から対人（患者さん）業務へと薬剤師の仕事の内容が変化しています。今回は協立クリニックの磯島寿人 医師を講師に迎え、患者さんの見た目（Apperance）、呼吸（Breathing）、循環（Circulation）などのバイタルサインを見極め、緊急性をキャッチできる薬剤師を目指すための学習を行いました。薬局に処方箋を持参した患者さん、市販の薬を購入に来た患者さん、在宅で療養している患者さんの緊急性を見逃がさず、どういう情報を医師に伝えなければならないのか、磯島先生のお話は解りやすいだけでなく、ユーモアも有りで、時折笑いが起きるような楽しい研修会となりました。実際の症例をもとに、考えられる病名を推理したり、トリアージしたりなど、実践的な学習内容は参加者に好評で、アンケートでは「ショック状態の定義がわかりやすかった。」「在宅や薬局の窓口だけではなく、入院中の患者さんやベッドサイドにおいても具合悪い人、様子がおかしい人の症状を、冷静に判断できるように日々イメージしながら病棟業務に努めたい」「非常に勉強になった」、「普段の業務に生かして行きたい」という感想が寄せられました。

（薬剤師育成小委員会　副委員長／舛甚路子）

青年雪かきボランティア
雪のかたまりに奮闘した青年達！

二月十六日（土）県連青年委員会では恒例の雪かきボランティアを行いました。今年で四回目となりました。

この『雪かきボランティア活動』は、自分たちでは除雪困難な方を対象とし、毎年企画しています。今年は弘前からも委員とその仲間たちが合流し、青森市にお住いの方を訪問して除雪しました。硬くなった雪を鉄のスコップで掻き出しながら、何度も軽トラックで排雪を繰り返しました。家の塀にこびりついた硬い雪を削るのは難航しましたが、若者たちの格闘の末、無事除雪を完了させました。雪かき後ジャンボリー委員長の対馬さん特製の豚汁とおにぎりを頂き、ほっと一息。参加者からは、「こうして集まれて良かった。」「来年はもっと参加者を募ろう！」と感想が出ました。

硬くなった雪と格闘中！

雪かきを行ったメンバーで記念撮影

目に見える地域貢献に実際自分で動いて感謝されると言う体験が、青年職員自身の成長につながります。これからも雪かきボランティアを継続出来るよう皆様のご協力をお願い致します。

（青森民医連／八木澤　寛）

2018年度 県連看護学生小委員会
合同総括会議開催

看護学生を受け入れる環境を考える
～看護学生委員としての職場づくりとは～

看護師確保で職場が選ばれるために、変えるべきこと・変えてはいけないこと

2月23日、県連看護学生小委員会合同総括会議を開催し22名が参加しました。

青森県立保健大学社会福祉学科の村田隆史先生から「大学生の生活状況と看護学生の動向」と題して講演していただき、県内大学生の奨学金利用率が高い現状や私生活の充実を優先して就職先を決めるにあたっての重要な情報は、『親しい先輩の声』であり、また学生たちは人間関係を重視していること。学生はより思っていることを言えるようになったので、時代変化により選ばれるために変わるべきことと変えてはいけないことがあると伝えられました。総括・方針の確認とともに、グループワークを行い、職場全体で学生を迎える体制を整える為に、スタッフ間の情報共有など看護学生委員として推進していくことを参加者全員で確認しました。

（看護学生小委員会／須藤千夏）

「えんたくん」を使って
グループワーク

全日本民医連第四十五次 辺野古支援・連帯行動

～沖縄基地問題の根本を考える～

二〇一九年一月二十三日～二十五日の三日間、第四十五次辺野古支援・連帯行動に参加しました。全国から二十五名が沖縄に集まりました。

一月二十三日、嘉数高台公園展望台から普天間基地を、道の駅かでな展望台から嘉手納基地を展望しました。夕方には稲嶺進氏（元名護市長）、伊佐真次氏（東村村議会議員）の講演があり、辺野古・高江両地区の現状や経緯などを学びました。

翌日は辺野古に向かいました。キャンプシュワブ土砂搬入ゲート前や辺野古テント村で基地建設に抗議する方々へ参加者全員の手書きメッセージの進呈などの支援・連帯を行いました。また、山上（瀬嵩の丘展望台）と海上（小型船に乗船）から建設現場を視察しました。

最終日はアブチラガマ、平和祈念資料館、魂魄（こんぱく）の塔を見学しました。沖縄戦について知ることで戦争の残酷さと平和の尊さを改めて感じさせられました。

この三日間で印象的だったのは初日の普天間・嘉手納両基地の立地でした。普天間基地は宜野湾市街地を分断し、滑走路の延長線上には住宅が立ち並んでいます。嘉手納基地は道の駅と道路一本しか隔てていません。どちらも生活圏のすぐそばで軍用機の離発着が行われ、市民生活が危険に晒されています。

この状態を脱する最大の妨げが日米地位協定です。二十三日の講演でも稲嶺氏は日米地位協定により「米国が望むだけの軍隊を、望む場所に、望む期間だけ、駐留させる権利を確保している」と強く非難していました。平穏な生活のためにはこの協定の見直しが必要です。今回の参加を機会に、沖縄の基地問題についてさらに学習していきたいです。

（津軽保健生協　経理部／荒木関匡孝）

普天間基地　オスプレイが駐機中

辺野古テント村で手書メッセージ進呈

道の駅と隣接する嘉手納基地

第8回 被ばく医療セミナー

2019年2月9日～ 10日にかけて東京秋葉原のTKP秋葉原カンファレンスセンターにて開催されました「第8回被ばく医療セミナー」に参加しました。当日は全国18県連50名が参加しました。

講師／原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟会長　吉原毅 氏

皆さんは2011年3月11日に起きた東日本大震災を覚えていらっしゃいますか。あれから8年が経過しました。現在の被災地の状況はどうでしょうか。国はまだまだ復興が完全ではないにも関わらず2017年3月末をもって住宅支援の打ち切りなど、避難者住民を見捨てる行為をしています。

今回は福島の被災状況だけでなく、1954年に起きたビキニ環礁での水爆実験による被ばく者、広島・長崎に投下された原爆の被爆者、原発事故避難者の現在の状況・報告を聞いてきました。

記念講演は原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟会長の吉原毅氏から、原発の危険さ・欧州に見習って太陽光などの自然エネルギーによる代替案の制定を目指すべきであるとのお話がありました。講座1 ～ 5では60年以上経過してもなお苦しんでいる人たちの訴訟活動や介護分野での近況、放射能に汚染された土壌の勝手な再利用方法などを伺うことができました。

私は以前福島視察に行ったことがあります。当時は「これほど荒れてしまった土地に人が戻ってきて復興することはできるのだろうか」と感じたことを今でも覚えています。何十年経っても後世を苦しめるものが、私たちには必要なのでしょうか。これからも原発推進の動きには反対し、情勢を歴史単位で学習して事故を風化させないようにしなければならないと感じました。

（ファルマ弘前薬局／西沢　光）

吹雪の中のバレンタイン行動、それでも70名の参加!

虹のバレンタイン行動 in 青森

2月14日（木）医療福祉生協連が推進する「虹のバレンタイン行動」を開催しました。
気温も低く、横殴りの吹雪の中でしたが、青森保健生協、あおもり健康企画、社会福祉法人虹の職員と地域の組合員で、約70名の参加となりました。昨年度の約2倍の参加でした。

今回は、安倍9条改憲NO!3000万署名と75歳以上の医療費負担原則2割化反対署名に取り組みました。30分間の行動でしたが、大雪にも負けない参加者の元気な声掛けもあり、30筆以上の署名を集めることができました。医福連のカードとチョコレートを配りながらの署名の呼びかけをしている中、署名に協力してくれた方々からは「寒い中頑張ってますね」「ご苦労様!」などの声をかけていただき、大きな励みとなりました。まだまだ春の足音は聞こえてきませんが、寒さと雪に負けずにこれからも、社保平和運動を継続していきます。

雪にも負けず！組合員さんと一緒に頑張りました！

（青森保健生協　組織部／川村耕平）

虹のバレンタイン行動 in 弘前

2/14（木）、弘前イトーヨーカドー前で虹のバレンタイン行動を実施しました。社保平和委員・職員合わせて27名が参加し、医療福祉生協の取り組みが紹介されたリーフレット入りのポケットティッシュを配って医療福祉生協をアピールしたり、署名運動も行って30分という短い時間でしたが計13筆集まりました。

リーフレットと一緒にチョコレートと愛情を込めました！

寒空の中、ティッシュ配りや署名活動を行いました。

当日は開始途中から雪が降り始め、寒いながらも参加者が必死にティッシュを配ったり、署名を呼びかけたりしていたのがとても印象的でした。また、買い物客も手袋を取ってまで署名してくれて非常に心が温かくなりました。

次世代を担う若者もマイクでアピール!

消費税の増税、75歳以上の医療費負担増、憲法改憲…今の日本は様々な問題に直面しています。将来の日本を支えていく私たち若者が中心となり、問題を発信して日本を変えていかなければなりません。そのために、こういう活動を継続して行っていくことが大切だと改めて感じました。

（津軽保健生協　組織部／齋藤淳一）

虹のバレンタイン行動 in 八戸

外気温はマイナス４度でも、時折吹く強い北風で体感温度はマイナス１０度にも感じられる極寒となった。２月１３日に、コープあおもりるいけ店前で行われた「虹のバレンタイン介護ウェーブ行動」には、職員や組合員１９名が参加しました。

署名しようとされるも、あまりの寒さに持参したボールペンのインクが凍結してしまい、職員の胸ポケットで暖められたペンと交換するなど悪戦苦闘しましたが、わずか３０分で５９筆ものご協力をいただきました。

介護保険制度は、働く職員にとっても利用者や家族にとっても、改善が早急に求められる課題だということを肌で感じられたウェーブ行動でした。

（八戸医療生活協同組合
組合員活動部／宮沢　守）

医学対大運動実施！

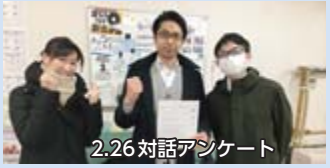
二月二十四日～二月二十六日の三日間「医学対大運動」として、医学部受験生へ奨学金資料配布とアンケートを行いました。

二十四日、二十五日には奨学金パンフなどの資料配布をし、二十六日には面接の終わった受験生に声をかけ、奨学金や新入生歓迎企画の興味の有無を聞きながら宣伝しました。実施した三日間、晴天だと思いきや一時的に激しい雨や吹雪に遭ったりしましたが、最後の最後まで粘り、奨学金資料は昨年より二部多い四百五十一部の配付、二十六日の対話アンケートは昨年より十一名多い百八十一名と対話することができました。対話中に「奨学金の話を聞きたいです」という方も複数おり、弘前事務所での個別説明につなげました！

この大運動期間に県連内事業所から合計で二十六名の職員の応援参加がありました。寒い中、ご協力いただきありがとうございます。引き続き、県連医学対では将来を担う青森民医連の医師確保に向けて取り組みを進めていきます。

（青森民医連／下村博央）

2.25チラシ配り


2.26対話アンケート

◆今年の大運動（受験宣伝）の結果

24日　会場下見者への資料配布受験者
　　約520名中配布数172部
25日　資料配布配布数197部
26日　対話アンケート対話数181名
奨学金説明4名、問い合わせ1名、配布数82部
資料配布総数　合計451部を配布!
受験生の86%に青森民医連の資料を届けました!

地域健康教室を開催しています

地域住民への情報発信により、健康づくりをサポート

「健康サポート薬局」として、地域住民の主体的な健康の維持・増進を支援する目的で、定期的に地域健康教室を開催しています。

大野あけぼの薬局は二〇一七年一月に「健康サポート薬局」となりました。健康サポート薬局では、地域住民の健康づくりをサポートする機能が大きな役割として位置づけられています。二〇一七年二月より、三ヶ月毎に地域健康教室を開催し、地域住民の健康意識の向上に努めてきました。当薬局の地域健康教室は、お薬や病気についてのお話と健康体操など一時間程度で開催しています。これまで、心不全や認知症、糖尿病、便秘症など、様々なテーマで開催してきました。参加者からのアンケートでは、「お薬のお話が大変勉強になった」「次は○○について聞いてみたい」「次回もまた参加したい」など嬉しい感想が寄せられています。また、毎回参加してくださるリピーターの方もいますので、スタッフの励みにもなっています。「健康サポート薬局」として、地域住民が気軽に相談できる薬局を目指して、今後も継続して取り組んでいきたいと思います。

（大野あけぼの薬局　薬局長／齊藤　仁）

セラバンドを使った健康体操

2019年2月の健康教室「冷え性と漢方」

青森保健生協 第11回 組合員・職員活動交流集会 開催

講師 倉敷医療生活協同組合
総務部長 道廣義則氏

3月9日（土）、リンクステーションホール青森にて毎年恒例の組合員・職員活動交流集会が「創ろう!～健康・平和・まち～」のテーマで開催され、組合員278名・職員108名、総勢386名が参加しました。

記念講演は「西日本豪雨災害と医療生協の役割～生協の災害対策をとおして～」と題し、倉敷医療生活協同組合総務部長の道廣義則氏に講演をいただきました。倉敷医療生協は昨年7月に起こった西日本豪雨で真備歯科診療所が被災。組合員や利用者の多くが被災しました。災害発生当初より避難所等へ医療支援を行い、被災した歯科診療所のスタッフ中心に真備地域の組合員さんのお宅へ訪問活動を展開した。その経験から得た生協の役割と教訓について語られました。

折り紙の体験コーナーの様子

青森市高齢者支援課から「高齢者の健康づくりについて」と題し、保健生協との連携について、また、あおもり健康企画から「薬局が担う地域の健康」と題し、かかりつけ薬局の重要性について講演して頂きました。

会場一杯の参加者となりました!

午後は組合員・職員の交流の時間として、多数の創作品やポスター展示などを楽しみながら、絵手紙やエコバックの体験教室、うたごえ、健康体操、じゃんけん大会など時間が足りないという声が上がるほど盛りだくさんの内容で大いに交流することができました。ポスター展示では事業所の様々な部署が自慢の班会メニューを披露し参加者が興味のある班会に投票するなど、工夫を凝らした企画もあり好評でした。

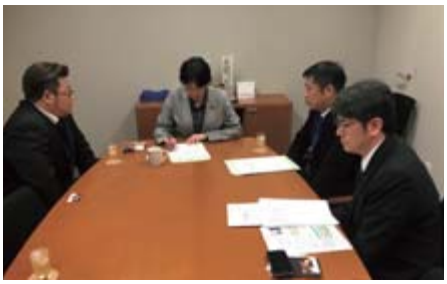
（青森保健生協・組合員職員活動交流集会実行委員長／砂川典満）

介護ウエーブ国会行動報告

二月二十日（水）に「介護ウエーブ国会行動」に参加しました。全国から七十五人が参加し、情勢学習・各地からの報告・紹介議員からの報告と署名手渡し（1 34、123筆）の後、各県の参加者ごとに出身の国会議員要請行動に移りました。

情勢学習は林事務局次長より、介護保険制度の現状や今後の課題、政府の介護処遇改善等の報告をいただき、それぞれの課題に対する対策を学習することができました。また全労連議長から「介護労働実態調査」報告を受け、制度や処遇等の改善を求める必要性を強く感じました。国会行動では、県出身の田名部議員に介護現場の実情を直接訴えることができ、事例を通じて制度の改正・処遇改善・人材確保等を訴えました。議員は「介護現場の実態を聞くことがなかなかないので、生の声を聞けて良かった」、「制度の矛盾や今後の課題について改善していきたい」と話していました。今回の行動で私たちの言葉で訴えることで少しでも良い方向に行く可能性があると感じることができました。初めての参加でとても良い経験と学びができました。

（青森保健生協　介護部　／田川　武）

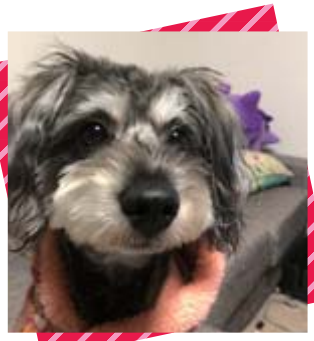


うちのメゴっこ vol.50

♥ name とら（メス）左
♥ age 4歳
♥ name くく（オス）右
♥ age 2歳

我が家にはトイプードルがいる為、猫を飼う気はなかったのですが…。野良猫だった『とら』の人懐っこさについつい騙され家で飼う事にしました。ところがだんだんお腹が大きくなりはじめ…すでにお腹には赤ちゃんがいました（笑）。5匹産まれましたが猫ブームにのり飼い手がすぐ見つかりました。「1匹は母猫のそばで育ててあげたい」と思い残ったのが『くく』です。ツンデレな『とら』と一日中寝ている『くく』。今では我が家の大事な家族です。末長く長生きしてもらいたいものです。

（青森民医連青森事務所　事務局次長／木村儀弘）



♥ name ひめ（メス）
♥ age 2歳

家族で買い物をしていたらペットコーナーでかわいいミニチュアシュナウザー（ひめちゃん）と出会いました。ペットを買うつもりはなかったけれど、家族全員がひめちゃんに一目惚れをしてしまい飼うことにしました。ソファーが大好きで家族が座っていると膝の上に座ってしっぽを振りながら大喜びする姿がとてもかわいいです。

（青森保健生協　組織部／福士　学）

私の三つ星★★★

オススメ

～十和田湖アクティビティ～

私のオススメは、十和田湖でのアクティビティです（ここでのアクティビティは「旅先での遊び」です）。近年、十和田湖や奥入瀬渓流でのアクティビティが盛んです。奥入瀬渓流を自転車散策したりネイチャーランブリングしたり（ランブリングとは、歩くことが主目的でなく、ある趣味をするために歩くことや、あることをしながら歩くということ）、十和田湖ではカヤックやジェットスキーなど、5月上旬から11月下旬にかけて様々な「遊び」を楽しめます。私は特に、十和田湖でのカヌーとSUP（サップ：スタンドアップパドルボード）が大好きでガイドツアーに申込み、仲間と一緒に楽しみます。

十和田湖は過去2回の噴火でできた湖で、一番深いところは東京タワーがほぼ埋まってしまいます。長い年月を掛けて苔が作った豊かな森に囲まれ、雨水が溜まってできた透明度の高い湖へ漕ぎ出すと、日頃の疲れも吹き飛び、自然の偉大さと温かさを感じます。

※写真はそれぞれのツアーガイドさんが撮ってくれたものです。

（青森民医連　青森事務所／山口理香子）

3月 2019年3月 第11回理事会報告

全日本民医連　第43期第13回理事会報告

>> 議決事項
- 第48回青森県看護介護活動研修交流集会開催要項

>> 会務報告／各委員会・医師委員会報告
- 全日本・地協各部門会議・研修
- 医師委員会報告／既卒医師対策報告

>> 協議事項
- 民医連の綱領と歴史を学ぶ大運動
- 「憲法9条を守る憲法闘争」推進本部について

主な 今後のSCHEDULE

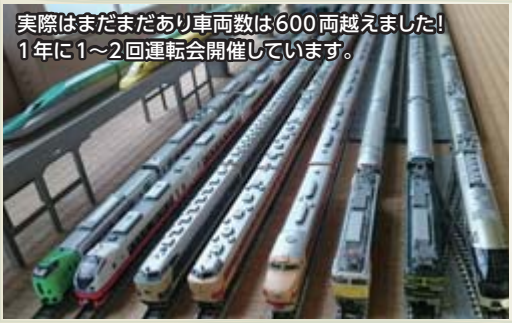
- 4/1 怒りの集会
- 4/4 4月県連理事会
- 5/25 青森県民医連第49回医師総会

全日本日本民医連 第43期 第2回評議員会報告

二月十六日～十七日、第二回評議員会がありました。評議員会は総会から次の総会まで半年ごとに開催し今回が第二回となります。評議員（予備含む）八十四人、全日本理事含め約百七十人が参加し、第四十三回総会から一年の折り返しとなる今回は、情勢認識の共有や二つの柱・経営・職員育成など六つの重要課題別に報告しあい、全国の教訓を学び深めました。特別報告が二つあり、山本一視副会長から「民医連の医師と医師集団は何を大切にするのか」、岩須事務局次長から「民医連綱領学習ブックレット」がそれぞれ報告され、意見交換し深めることができました。またあずみの里裁判で起訴された看護職員と施設長から、三月二十五日の判決前に支援の訴えがありました。青森民医連からは田代会長から「安倍改憲阻止三千万人署名の取り組み」を、佐藤から「津軽保健経営改善の取り組み」について報告しました。三月四日民医連新聞で確認された方針を学習し合いましょう。

（青森民医連　事務局長／佐藤真人）

あおもり民医連 280 号 発行日 2019.3.29 発行部数 2,806 枚 AOMORI MIN-IREN



「鉄オタク」です。部屋一面に鉄道模型の線路を敷いていろんな列車を走らせて楽しんでます。
（津軽医院
通所リハビリ／中村　真）

30年アイスホッケーを楽しんでいます。全く上達しませんが…。
（ケアネット中部／津川美香）

椎名林檎愛好家歴15年です。LIVEで使った旗コレクションを持っています。
（あけぼの薬局新町店／藤田光希）

美容師です。学生も含めると約10年間、美容業界に身を置きましたが、二人目出産後復帰するも子育てと仕事の両立がむずかしく、美容師をやめました。長く働き続けられる青森保健生協で今後もお世話になりたいと思ってます。
（青森保健生協　人事部
／岩葉麻衣子）

実は私はサウナーです。20年前からほぼ毎日通うヘビーなサウナーです。この辺りでは、ちょっとした有名人です。いろんなサウナを渡り歩いています。中でも最近体験した「ロウリュ」は、心も体も浄化され、明日からの活力につながっています。
（株式会社ファルマ（事業協出向）／田澤由香里）

※県連機関紙編集委員会からの氏名公表依頼を快く了承してくださった上記５名のみなさまありがとうございました！

実は私は、○○です（○○を持ってます）教えてください

279 号（2019 年 1 月号）お年玉プレゼント応募用紙に記載していただいた、皆さんの「○○」の中から紹介したいと思います。

歌手レベッカの遠い親戚です☆

昔買った、アイドルのカセットテープまだ持っています。

シックスパックのムキムキです。

お華の家元の免許を持っています。

ご当選おめでとうございます!

お年玉プレゼント

今回のお年玉には33通の応募を送っていただきました。どうもありがとうございます。
皆さんから送っていただいたご意見・ご要望を、編集委員一同、参考と励みにしながら一層充実した、楽しくタメになる紙面づくりをしていきたいと思います。

1等 3,000円　2名
中村 真さん（津軽医院・通所リハビリ）
岩葉 麻衣子さん（青森保健生協・人事部）

2等 1,000円　5名
小野 弘子さん（デイサービス虹のひろば新城）
高正 則幸さん（あおもり協立病院・検査科）
藤田 光希さん（あけぼの薬局新町店）
今 麻友佳さん（健生介護センター虹・デイサービス）
田澤 由香里さん（（株）ファルマ・事業協出向）

3等 500円　18名
赤石 友紀さん（㈱ファルマ・浪岡薬局）
浅利 ちづ子さん（津軽医院・看護）
石澤 朋子さん（あおもり協立病院・5階病棟）
長内 彩菜さん（健生病院・健診科）
成田 百合子さん（津軽医院・医事課）
長利 三賀子さん（津軽医院・通所リハビリ）
佐藤 寿美子さん（ケアネット中部）
海老名 栄子さん（ケアネット中部）
津川 美香さん（ケアネット中部）
笹森 厚子さん（藤代健生病院・第３病棟）
外崎 幸子さん（健生介護センター虹・デイサービス）
湯岡 武志さん（健生介護センター虹・デイサービス）
對馬 トミ子さん（健生介護センター虹・デイサービス）
高谷 静さん（健生介護センター虹・デイサービス）
花田 喜美代さん（健生介護センター虹・デイサービス）
齊藤 泉さん（健生介護センター虹・デイサービス）
今 晴美さん（健生五所川原診療所・外来）
櫻庭 加奈子さん（あおもり協立病院・リハビリ科）

※当選順で掲載しています